

2025年4月20日
沼津芹沢光治良文学愛好会

「芹沢光治良を偲ぶ会」を催します。

来る5月4日（日）は、芹沢光治良先生（1896－1993）の生誕日です。

「沼津市芹沢光治良記念館」は、この日を「無料開館日」として、開催中の企画展「『人間の運命』の舞台を旅する（第2回）」展示説明会を行います。

また、「沼津芹沢光治良文学愛好会」は、定例会を公開として、「芹沢光治良を偲ぶ会」を催します。

これらの催しをSBSラジオ（毎日放送系）が4月23日（水）9時25分前後（約5分間）に取りあげてくれる予定です。（AM 1404kc、FM 90.1Mhz）

「沼津市 芹沢光治良記念館」の剣持直樹さんが、スタジオからの電話インタビューに答えます。お時間をやりくりして、ぜひお聴きください。（静岡以外の地域の方もラジオ放送を聴くアプリで「静岡放送(SBS)ラジオ」を選択して聴いていただけます。）

芹沢先生は、今からちょうど100年前の1925（大正14）年、フランスのソルボンヌ大学に留学しました。そして、社会統計学の手法と貨幣論を研究し、社会の現象を人文的な眼で説明するのではなく、統計的手法で社会の状態や変化を記述する、いわゆる（近代）実証科学手法を学ばれました。

そのいっぽうで、フランス滞在中、欧州の国ぐにの文学、演劇、美術、美学（哲学）にも触れ、日・欧（或は、東洋と西洋）の文化の違いについてもふかく考を巡らされたようです。例えば、『人間の運命』『離愁』『孤絶』『巴里に死す』『サムライの末裔』などを讀むと、日本文化に育まれた自身の価値観・美意識・理性で、世界の多様な文化を尊重しつつ、吸収しようとする芹沢先生の態度が分かります。また、日中戦争の戦地に取材した『南寺』などは、中国大陸の人びとが培ってきた疆（つよ）い文化を高く評価する筆致は、「文化とは何か」を読者に問うているように思います。

ことしの「芹沢光治良を偲ぶ会」では、光治良先生の異文化の交流や多様な文化を理解しようとする姿勢・態度を知る「ヒント」を探りたいと思います。

以上

（担当：沼津芹沢光治良文学愛好会 不破久温）